

③ 作曲指揮専攻

作曲「芸術音楽コース」

入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細は「①一般選抜概要」を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典（50分）

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音（30分） 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・・・・・・・・大譜表による四声体和声（密集）、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技（ピアノ）

※すべて暗譜で演奏すること。

- (1) 音階：同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。

ハノン No. 39、または本学指定の音階楽譜（本学ホームページよりダウンロード）のいずれかを使用すること。ハノン No. 39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。

- (2) J.S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

- (3) 自由曲1曲（自作品は不可）

※繰り返しは任意。

※(2)(3)計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

6. 専攻実技

- (1) 和声（イ）転調および非和声音を含むバス課題（2時間）
（ロ）転調および非和声音を含むソプラノ課題（2時間）

- (2) 作曲 与えられた動機による楽曲の創作（5時間）

※一般選抜（B日程）では、電子ピアノ使用可。

- (3) 面接 10分程度（作曲を志した動機等について質問します）

作曲「ミュージック・メディアコース」

入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。「英語」は筆記とリスニングの双方を課す）
- (2) 本学が行う試験（英語・60分）
- (3) 資格試験
詳細は「①一般選抜概要」を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する（大学入学共通テスト等は利用しない）。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中高等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音(30分) 旋律聴音(8小節程度)・・・各専攻共通1題および専攻別1題
和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 専攻実技

(1) 伴奏付け：譜面作成とそのピアノ演奏(1時間)

- ① 与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。譜面は手書きで書いたものを提出する（譜面作成時、備え付けのキーボード使用可）。
- ② ①で「伴奏／コード付け」した結果を、面接時にピアノで演奏する。
※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(2) 和声(2時間)

- ① 転調を含むバス課題。
- ② 簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。
※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。
※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

(3) 小論文(1時間)

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

(4) 面接とプレゼンテーション

①面接

作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。また特別な音楽的能力を有する者は、面接でアピールすることができる。(注1参照のこと)

②ピアノ演奏

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない(ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可)。(注2参照のこと)

③伴奏付け(専攻実技課題(1))の実演

専攻実技課題(1)伴奏付けにおいて与えられた旋律に対して行った「伴奏/コード付け」をピアノで演奏する。

※今年度本学で実施のミュージック・メディア プレップ・コースにて「伴奏付け」の科目が認定された者は、本入試での「③伴奏付け(専攻実技課題(1))の実演」の試験を免除する。

④自作曲の評価

自作曲のデモ音源、楽譜(スコア等)を持参し、面接時にアピールすること(注3参照のこと)

注1 面接について

アピールしたい受験者は、楽器演奏や音楽制作に携わった作品の映像(動画ファイル)を面接時に提出すること(ライブ、コンサート等の映像も可とする)。

ただし、提出できる映像は2本まで。各映像の長さは3分未満とする。

また、映像内で受験者本人を確認(本人の姿やクレジット表記)できるものとする。動画ファイルの拡張子はmov または mp4 のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。

《当日の楽器演奏を希望する場合》

ギター、ベース、ヴァイオリン、フルート等の楽器演奏を面接時に希望する場合は、楽器を持参すること。ギターアンプ、ベースアンプは備え付けのものを使用する。演奏を希望する楽器名、楽曲名は曲目記入票に記入すること。

電子オルガン等、複数人での移動を必要とする大型楽器の持込みは不可とする。その場合は動画ファイルを提出しアピールすること。

注2 ピアノ演奏について

①基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。

②自作曲のピアノ演奏を行う場合は、(4)④の自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。

③暗譜で演奏すること。

注3 自作曲について

曲数は2曲までとし、各曲の長さは3分未満とする。楽曲のスタイルやジャンルは自由だが、デモ音源は試聴するための十分な状態を満たすこと。

《デモ音源、楽譜の提出について》

①デモ音源は、オーディオファイルで用意すること。オーディオファイルの拡張子はwav、aif、mp3のいずれかとし、USBメモリに保存して面接当日に持参すること。また複数曲の場合は、試聴する順に番号をファイル名の先頭に入れること。

(例: 01_song.wav)

②楽譜(スコア等)に曲名、受験番号、氏名を記入の上、4部面接時に持参すること。簡易でもよいので製本をすること。視聴後、楽曲の部分的な演奏を指示する場合がある。その場合、基本的に使用する楽器はピアノとする。

指 揮

入学試験科目

1. 外国語

【一般選抜(A日程)】

以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト 外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択。
「英語」は筆記とリスニングの双方を課す)
- (2) 本学が行う試験(英語・60分)
- (3) 資格試験

詳細は「①一般選抜概要」を参照のこと。

【一般選抜(B日程)】

調査書の評定を利用する(大学入学共通テスト等は利用しない)。

※英語を母語とする者または国内外を問わず中等教育において3年以上継続して主として英語で教育を受けた者は免除する。ただし、通常の課程による3年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

2. 楽典(50分)

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

4. 聴音(30分) 旋律聴音(8小節程度)・・・各専攻共通1題および専攻別1題
和声聴音・・・大譜表による四声体和声(密集)、8小節程度



※今年度本学で実施の受験講習会にて認定試験で認定された者は、本入試での当該科目の試験を免除する。

5. 副科実技(ピアノ)

※すべて暗譜で演奏すること。

- (1) 音階: 同一調号による長調と短調を、任意に選択して演奏する。
ハノン No. 39、または本学指定の音階楽譜(本学ホームページよりダウンロード)のいずれかを使用すること。ハノン No. 39 の場合は、速度は♩=76 程度以上、長調は繰り返しなしで終止カデンツをつけ、短調は和声的短音階を1回弾いた後に続けて旋律的短音階を1回弾き終止カデンツをつける。本学指定の音階の場合、この速度は二分音符=72 程度以上とする。
- (2) J.S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲(プレリュードとフーガ)
- (3) 古典派ソナタより任意の1曲(第1楽章または終楽章)
※繰り返しは任意。

※(2)(3)計2曲で10分以内とする。作品番号、調性、楽章なども記入すること。

6. 専攻実技

- (1) 聴音（単旋律、二声および木管四重奏）
 - (2) 新曲視唱（各種音部記号による。ただし、メゾ・ソプラノ、バリトン記号を除く）
 - (3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い
 - (4) スコアリーディング（2 管編成程度の管弦楽曲）
 - (5) 指揮実技
 - (イ) 2 管編成程度の管弦楽曲の初見指揮（演奏は 2 台のピアノによる）
 - (ロ) モーツァルト：交響曲第 35 番ニ長調ベーレンライター版（演奏は 2 台のピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる）
 - (ハ) ベートーヴェン：劇音楽『エグモント』序曲 ※版は問わない（演奏は 2 台のピアノによる）
- ※（ロ）（ハ）は暗譜で演奏（指揮）すること。
※一般選抜（B 日程）では、（ロ）の演奏は 2 台のピアノによる
- (6) 演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声乐不可）
※暗譜の必要なし。楽譜を使用する場合は、紙のものを用意すること（電子楽譜は使用不可）。
 - (7) 和声（バス、ソプラノ課題「初級程度」1 時間）
 - (8) 小論文（1 時間）
 - (9) 口述試問